

【地域の概要】

- 当町の総面積は41.16km²、土地利用状況は総面積のうち69.5%を山林が占め農地はわずか6.3%であり、その形態は飛騨川の両岸に沿って細長く拓けた農地、住宅、工場、学校等が混在している平地である。その他、鹿塩、神坂の山間部等は比較的ゆるやかな傾斜を最大限に利用した農地である。
- 農業委員12名、農地利用最適化推進委員3名が活動している。

①取組開始前の状況や課題

課題

○地域計画策定に向けた目標地図の素案作成などの新たな業務が増えたことで、活動記録簿の集計や農地パトロールへの同行など事務局の業務を省力化する必要があった。

○地図や写真などは手渡しで行っており、事務局への報告に時間がかかっていた。

②取組内容

タブレット活用に向けたサポート

○農地パトロール実施に向けて8月に農業会議職員を講師にeMAFF現地確認アプリについて研修を実施。その後もタブレット操作に慣れてもらうため、総会後に研修を行った。



研修会

タブレット活用による農地パトロール実施（令和5年9月）

○eMAFF現地確認アプリによる農地パトロールを実施。各委員にタブレットを持参させ、事務局が使い方をレクチャーするとともに実際に委員がタブレットに入力を行った。

③今後の展開と方向性

更なるタブレット活用を促進

- 日頃の見回りにeMAFF現地確認アプリを活用できるよう令和6年度も継続して農地パトロールで使用し、委員だけで使用できるよう慣らしていく。
- ワンデスクシステムによる意向把握や活動記録簿入力もできるよう支援していく。